



31 源氏物語 五四帖

伝三条西実枝筆 54冊 24.5×18.0cm 蒔絵匣入
へ2-4867(51)

三条西家旧蔵。本文は一筆書きで、三条西実枝(1511~79)の筆になると伝える。

実枝(さねき)は祖父が実隆、父が公条。この三条西家3代は、古今伝授に深く関わり、源氏物語をはじめとする古典文学の研究に貢献すること大であった。

長い間東国に滞在していた実枝は、永禄12年(1569)6月帰洛し、それから69歳で没するまでの10年間に多数の著作を残した。翌年3月から宮中で源氏物語の講釈を行い(お湯殿上日記)、そのかわり三条西家の源氏学を大成すべく注釈書『山下水』を作成した。

三条西家の源氏物語の伝本は藤原定家が証本として定めた青表紙本の系統の本である。

列帖装。表紙は金茶地緞子に桜花文様、中央に金泥をひいた題箋を貼付。本文の用紙は鳥の子、毎半葉10行書き。華麗な菊花文様の高蒔絵の施された八つ抽出の小簞笥に収められている。



32 敦盛絵巻

伝飛鳥井雅親卿息女一位局筆 2巻 上巻
26.0×696.0cm 下巻 26.0×545.0cm

チ4-2084

この絵巻は『敦盛絵巻』と呼ばれているが、内容は、一の谷の合戦の後、平敦盛の遺児が法然上人に育てられ、母および父の霊との対面を果たすという、いわゆる「子敦盛」の世界を描いたもの。

草子系の子敦盛のうち、慶応義塾大学図書館蔵本などの絵巻と同系であるが、他の本とは異なる独自の本文をもつ部分がある。

2巻に分けられて伝わっているが、もとは1巻であったと推定される。室町末期の書写で、詞書16段、奈良絵風の図15面から成る。下巻の題箋に「敦盛伝記」、箱書きに「敦盛絵巻飛鳥井一位局書画」とある。

表紙は後補されたもので、鳥の子、藍・白の重層雲形模様金銀砂子野毛散らし、蝶・草を線描している。

見返しは、雲母引き白地に金切箔散らし。

料紙は楮紙。1紙は49cm前後。雲母引きの斐紙で全体が裏打ち補修されている。

本文字高は23.5cm。1行20字前後である。